

社会科と総合的な学習

一 「政治学習」単元の教材開発 一

天内 純一 平賀町立小和森小学校

要旨

社会科と総合的な学習のねらいの違いにふれながら、問題解決力など二つの学習に共通することがらについて考察した。また、二つの学習を横断的・総合的にすすめるために、6年の社会科「政治学習」の単元を中心に教材開発を行った。

政治と自分との関わりに気付かせるために、児童会活動との関連を図ること、模擬議会を取り入れること等を考えるとともに、社会科と総合的な学習を横断的・総合的に進めるための指導計画を工夫してみた。

[キーワード] 小学校、総合的な学習、社会科学学習 横断的・総合的な学習

1. はじめに

社会科と総合的な学習は、どちらも子どもの興味・関心を大事にしながら問題追究活動に取り組ませていくという点では共通している。問題に気づく、調べる、まとめ表現する、発信するという問題解決力を大切にしているという点も類似している。また、総合的な学習の内容として例示されている国際理解、情報、環境、福祉・健康などは、社会科学学習でも重視されているものである。

それでは、社会科と総合的な学習は包含的に考えてよいのかというと決してそうではない。それぞれに異なったねらいを持ち、独自の学習活動が展開されるべきである。この点が間違っ^て捉えられていることがある。例えば、中学年の「飲料水」「廃棄物」等の指導を行う場合に、総合的な学習だけで扱い、「学習内容の精選をした」というようなのはずれのことが語られたりする。これでは、総合的な学習の存在が意味をなさな^いばかりか、社会科本来のねらいをも曖昧にしてしまう。

この二つの学習についてきちんと考察をする必要がある。そこで、本稿では、まず、社会科と総合的な学習との違いや関連性について考えていきたい。次に横断的・総合的に学習を進めるための教材について述べていく。

単元としては「政治学習」を取り上げる。この単元はこれまで社会科の学習だけで行われることが多く、実践例も少ないので、まず先行実践例を探ることにする。次に先行実践を参考にしながら、独自の教材を開発していくことにも力を注ぎたい。また、政治学習にあたって、社会科と総合的な学習が、横断的・総合的に進められる必要性についても述べる。

2. 社会科学学習と総合的な学習

(1) 社会科学学習と総合的な学習のねらいのちがい

社会科学学習は社会的事象の意味や働きを追究し理解するものである。そのため単元目標がしっかり設定されている。例えば、中学年に、「人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できる」という目標がある。学習内容としては「飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理」などがある。この目標を達成し、学習内容の理解がなされなければ、体験活動を多彩に行ったり、主体的に問題追究に取り組んだりしても、社会科学学習は成立

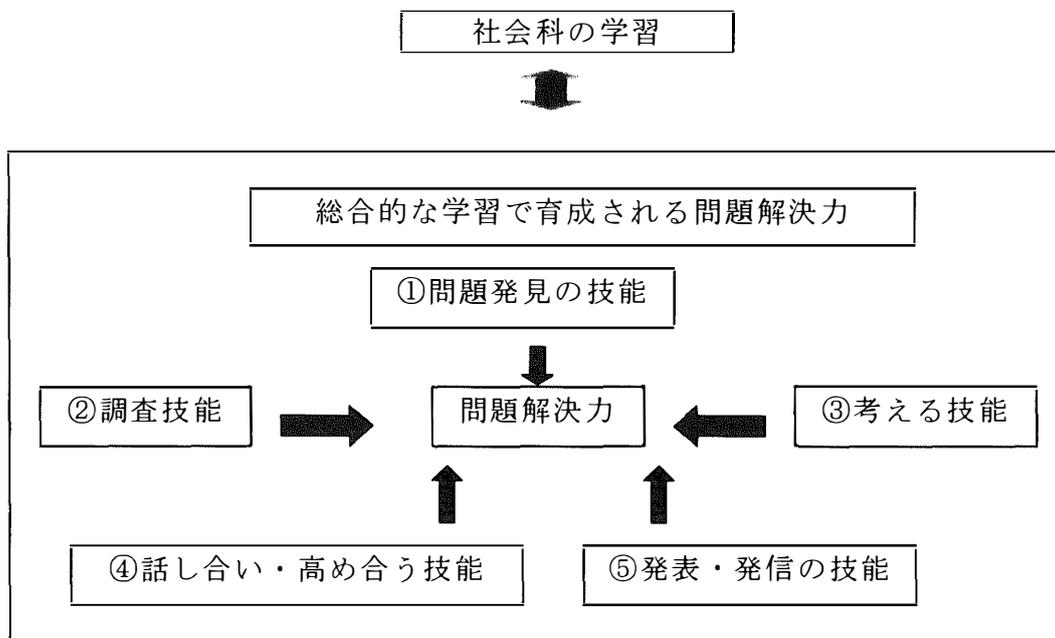
しない。「知識・理解」が身につかなければならない。

それに対して、総合的な学習は子どもが自ら課題を見つけ、問題追究を行い、自己の生き方を考えることができるようにすることがねらいである。そのためには、豊かな体験や子ども自身が深い関心を持って追究活動を行ったかどうかということが重要であり、それらの学習を通して、何を理解したか、また、どのような技能が身についたかということは優先されない。

(2) 社会科学習に生かされる問題解決力

総合的な学習の大きなねらいは問題解決力の育成である。この問題解決力をどのように身につけさせていくかということについては拙著²⁾を参照していただきたい。

五つの技能で構成される問題解決力を育成したり、それらを利用して追究活動に取り組んだりするのが総合的な学習であるが、同時に問題解決力は社会科においても育成され、また活用されなければならない。この意味で二つの学習は強い関連性を持っている。



(3) 社会科学習と総合的な学習とのかかわり

広島市小学校教育研究会社会科部会³⁾では、社会科学習と総合的な学習とのかかわり方を次の四つのパターンに分けている。

- ・社会科学習から総合的な学習へ
- ・総合的な学習から社会科学習へ
- ・総合的な学習 → 社会科学習 → 総合的な学習
- ・社会科学習 → 総合的な学習 → 社会科学習

この分類は適当であると考えるので、このうち一番はじめに掲げた「社会科から総合的な学習へ」という場合について具体例をもとに少し述べてみる。

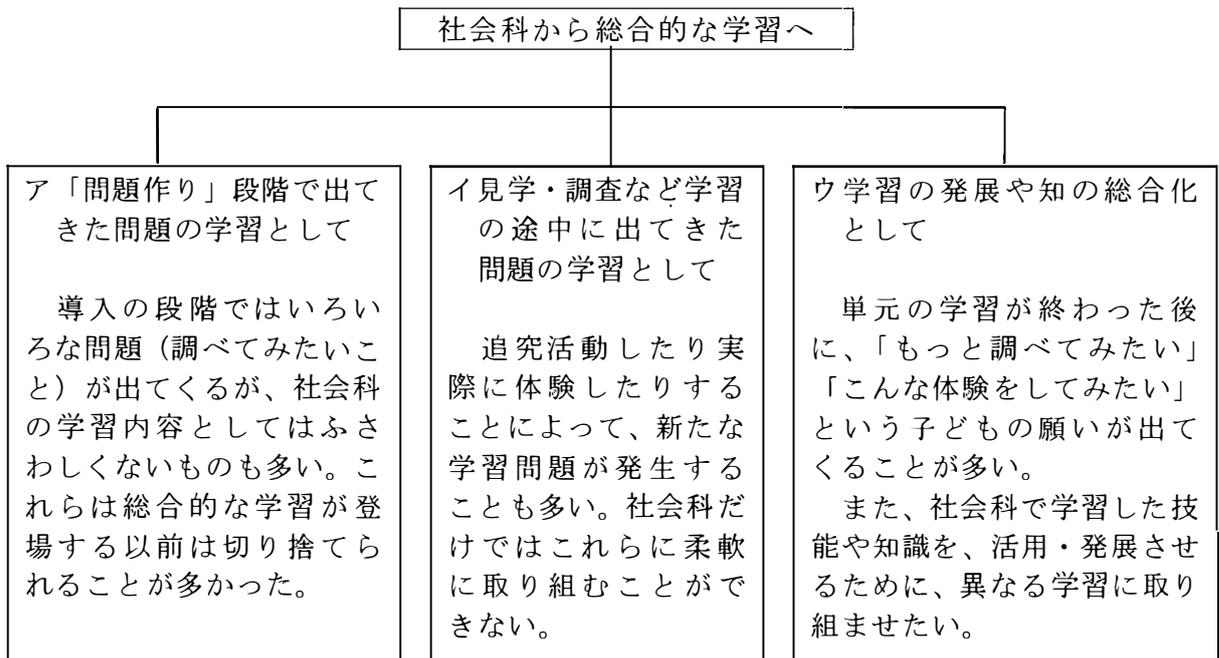
① 社会科学習から総合的な学習へ

社会科の授業で、問題追究にじっくりと時間をかけ、より確かな知識・理解を定着

させようとするれば時間数は不足している。問題に気付かせること、調査・観察活動に取り組みさせること、まとめ・表現・発信させること等に力を入れれば、かなりの時間を社会科に使いたいところである。

それはさておき、社会科の授業の中では、子どもの意欲・関心が広がると、ねらいや学習内容が社会科としてはふさわしくないものもたくさん出てくる。その中には子どもの追究問題としてレベルの高いものも含まれているが、授業時数が限られていることと、学習内容が定められていることから、社会科の授業としては取り上げられない。残念なことであった。このような問題点が総合的な学習の登場によってかなり解消されるようになった。

社会科の中で、子どもから出てくる問題（調べてみたいこと）を授業の段階によって分類すると次のようになる。（分類は筆者）



ア 問題作り段階で出てきた問題の学習・・・4年生の例「安全なくらし」

「クイズ・消防署長さんに聞きました」のゲームをした後、消防のはたらきについて学習する計画を立てる。その時に出てくることとして、次のようなことがある。

- ・ 消防署の人はどんな仕事をしているか。
- ・ 学校が火事になった時、5分でやってくる。そのひみつは？
- ・ 自分の家（〇〇町）の近くが火事になったら、どこから水を持ってくる？

◎ 学級消防団をつくってみたい。（注1 後述）

この◎のような学習活動が出てきた場合、社会科の授業では取り上げるのが難しいが、総合的な学習と横断的・総合的に取り上げれば学習意欲が高まり、魅力的な学習活動になる。

イ 見学・調査など学習の途中に出てきた問題の学習・・・3年生の例「わたしたちの町」

町で作られている農産物の学習のために水田を見学に行った時、近くを流れている大きな川に興味を持った。子どもたちは川が大好きだ。川について知りたいこと、調べたいこととして、次のようなことが出てきた。

- ・ 川の水はどのあたりから田んぼに入ってくるのか。
- ・ 川はどこからきて、どこへ行くのか。
- ・ 川にはどんな生き物がいるのか。(それは田んぼにもいるのか)
- ・ 川の水はいつも同じくらい流れているのか(水の量)
- ・ 川でいろいろなことをしてみたい。

これらの中で、米づくりの学習に関連していないが、子どもの関心が高いものがある。

ウ 学習の発展や知の総合化・・・4年生の例「住みよいくらし」(廃棄物の学習)

ごみのゆくえを追究して、清掃工場の見学をした時、清掃工場の人のお話の中に、「地球環境を大切にすること、すみよい環境を作るために私たちはいろいろな努力をしていかなければならない」ということがあった。社会科ではごみの学習にとどまったが「環境」について子どもたちの興味・関心が高まった。そこで、総合的な学習の時間を利用して追究させた。

環境について自分なりの課題を持たせた後、追究活動に取り組みさせた。(調べた方の指導にも時間をとった)そして、追究したことをわかり易くまとめたり、プレゼンテーションしたりするための指導にも時間をかけた。学習活動は次のようになった。

- ・ インターネットの利用の仕方
- ・ 自分が考えた課題(環境)について調べる
- ・ まとめ方の学習
- ・ さまざまなプレゼンテーション

(4) これまでの社会科の実践から

総合的な学習の時間が登場する以前に、筆者が社会科の時間内で時間をうまく調整して取り組んでみたものに次のような活動がある。授業時間が限られているので駆け足で活動がなされることも少なくなかった。

- ① 模倣発掘 (注2 後述)
- ② 縄文土器づくり (注3 〃)
- ③ 古代米作り (注4 〃)

総合的な学習の時間で、じっくりと時間をとってこれらの活動に取り組みさせることによって、豊かな体験に裏付けられた学び意欲が育つ。

3. 「政治学習」の教材開発にあたって

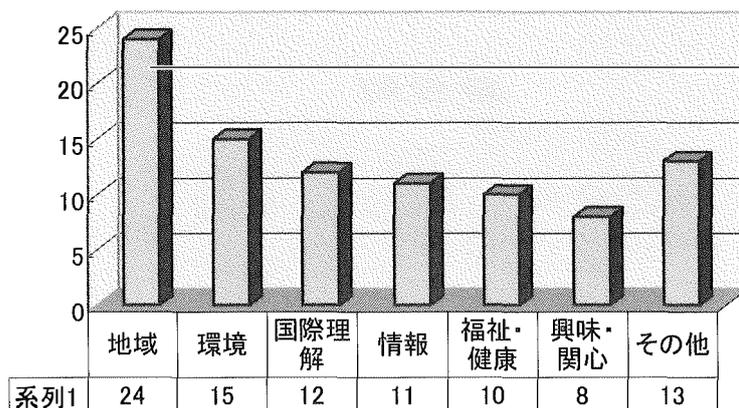
(1) 先行実践について

総合的な学習についての各校での取り組みを3つの書籍から調べてみた。

- ・ 特色ある教育活動の展開のための実践事例集 4)
- ・ 全国総合おすすめメニュー200事例 5)
- ・ 総合的な学習・カリキュラム・プランニング 6)

次の図は「特色ある教育活動の展開のための実践事例集」の実践例を内容によって分類したものである。資料が少し古いが、全国での取り組みを網羅的に載せている資料としては貴重なものである。これらを学習内容別に分類したのが次のグラフである。(グラフ化したのは筆者。)

最も多いのが地域の人、物、自然等に関するもので、次に環境、国際理解と続いている。それぞれに多彩な取り組みが紹介されているが、政治の学習に関連した実践例はなかった。



「全国総合おすすめメニュー200事例」の中には「福祉」との関連で政治の学習に関連する事例がいくつか取り上げられている。それは、自分たちの考えを市役所の方に伝えるという「発信」の場で登場している。

また、総合的な学習・カリキュラム・プランニングには（実践例ではないが）考えられる指導例が紹介されている。「私は市長さん」という単元である。市が募集している「子どもまちづくり会議」への参加を、学習意欲を高めるための導入部分として利用している。会議のテーマは、「未来の公園」であるが、ここで提案するための意見文作成のために、地域のいろいろなことを追究させるのである。

この活動は効果的であると思うが、後述する「平賀町児童会生徒会サミット」と似ていて、会議への参加者が一部児童であるという欠点がある。

(2) 社会科の教科書

平成17年度は五社の教科書⁷⁾の使用が予定されているが、教科書における政治の学習は、おおむね次のような流れをとっている。まず身近な公共物の存在に気付かせる。そして、その公共物（児童館等）とのかかわりや、重要性を考えさせる。それから、その公共物が建てられるまでの経過を調べさせながら、政治と自分たちとのかかわりに気付かせていくのである。詳細については、「小学校における政治学習」⁸⁾を参照していただきたい。

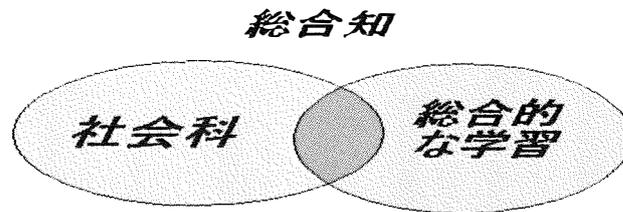
総合的な学習と横断的・総合的に取り組むことを想定して、例も載せられている。平成17年度使用予定の5つの教科書を分析してみたところ、次のような具体例があげられていた。

- ・ 政治の働きを「災害から人々を守る」という面から考えてみよう。
- ・ 阪神・淡路大震災における国の取り組みを調べよう
- ・ 政治の働きを「地域の特色を生かした街づくり」から考えてみよう。
- ・ 点字を読みとってみよう。
- ・ BSE牛の問題をもとに厚生労働省とわたしたちの暮らしについて考えてみよう。
- ・ 街の広報を作ろう。
- ・ 体験してみよう「アイマスク」「車イス」
- ・ その他

これらの学習活動に取りくむことによって、問題追究力と総合知の獲得がなされるのだが、総合的な学習の時間が登場する以前には、そのための時間確保が難しかった。総合的な学習の時間の利用によって、社会科学習に広がりや深まりが出てくるようになった。

社会科と総合的な学習の関係については下の図のように考えている。社会科と総合的な学習に共通するのは問題解決力と豊かな体験である。二つの学習は相互に関連し合いなが

ら子どもに「総合知」を身につけさせていく。



(3) 教材開発のための資料

前項で教科書に載せられている政治学習の概略を述べたが、この中で、身近な公共物の調査に触れた。教科書と同じような学習過程をとるとすれば、平賀町の場合、平賀文化センター建設の調査ができる。平賀町文化センターでは、町内全部の小学校が参加する音楽発表会と芸術鑑賞教室が毎年われていて、子どもたちには身近な場所である。また、センター内には図書館もあり、よく利用している。

この平賀町文化センターの建設に到る過程を考えさせることによって、私たちの暮らしと政治とのかかわりに気付かせるとともに、政治のしくみについて理解させることができる。

この他に、政治学習への関心を高め、横断的・総合的な学習を展開させるために、次のような資料を集めてみた。

① 学校建設のための費用

子どもにより身近な教材としては学校の建設もある。N中学校が新設されて間もないが小和森小学校の学区にあるので、実際に新設された学校を見た子や話を聞いたことのある子がいる。その様子を伝え合ったり、校舎と内部を撮影した映像資料を鑑賞し合ったりすることによって問題意識が高まる。

次の図1・2は資料 11)をもとに作成したものである。図からわかるのは次のようなことである。

- ・ 工事には多額の費用がかかる
- ・ 工事はいくつにも分かれていて、それぞれの工事に費用がかかる
- ・ 設計や備品など、目に見えないところでも費用がかかる
- ・ 町のお金だけでは学校建設はできない
- ・ 補助金や借入れ金を合わせると80%を超えてしまう

図1 N学校建設にかかる費用 (単位 億円) 総額21億6千万円

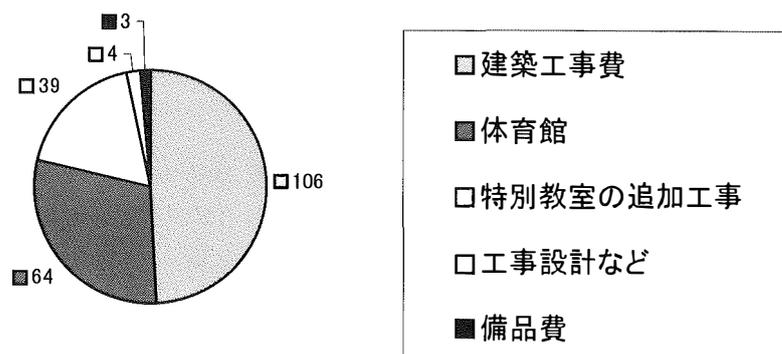


図2 事業費の調達について (国からの補助・借入 17億7千万円)



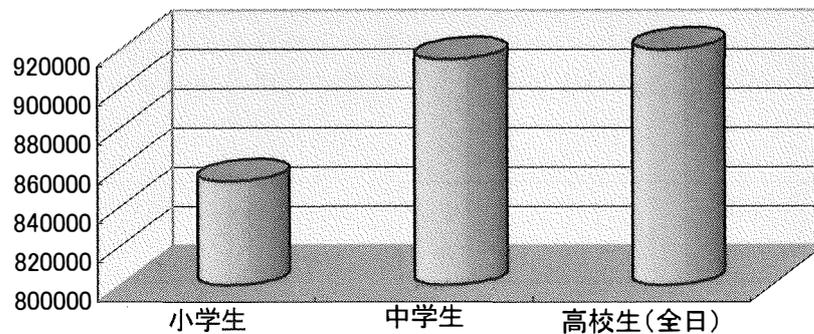
このN学校の建設費用を町民一人あたりの負担額にしてみると、94500円となる。(平賀町の人口22600人)これは大きな金額である。

また、国からの援助が多いため、町の政治と国の政治が密接に結びついていることも理解できる。

② 国や地方が負担する年間教育費

小学生の教育のために国が負担している費用の大きさに着目して学習を進める方法も考えられる。次の図は国税局が作成した6年生の社会科学習の副読本⁹⁾からの引用である。

図3 公立学校1人あたりの年間教育費 (図の作成は筆者)



小学生・中学生・高校生、一人当たりの年間教育費を表したものである。小学生1人に年間85万3千円も使われている。一人分だけでも多額の費用であるが、これを学級全体ではどうか、さらに全校ではどうなるのか、国全体ではと考えさせてみる。そうすると、国が子どもの教育のために多くのお金を使い、とても力を入れていることがわかる。(子どもに多額のお金をイメージさせるための具体例については、注5を参照。)

ところで、この教育費の中に含まれる「教科書の無償配布」について考えさせてみるのも良い。昔は教科書の無償配布がなかったので、お金を出して教科書を買わなければならなかった。その当時のようすについて、祖父母や近所のお年寄りにインタビューしてみると、兄弟で譲り合ったり、近所の子から譲り受けたりして古い教科書を使った苦労話が出てきて、教科書無償配布制度発足までのいきさつや、この制度の重要性がわかる。

③ 児童会生徒会サミット

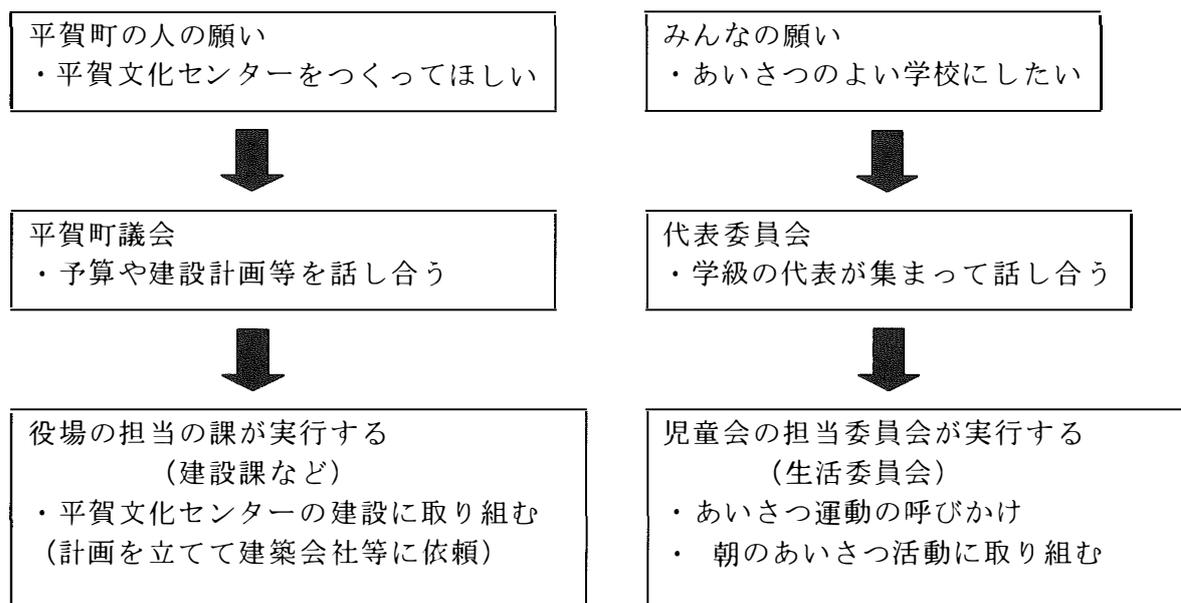
平賀町では町内の小学生を対象にした「児童会サミット」が行われている。子どもたちのさまざまな疑問や願いを発表し、これに対して役場関係者が答えるというもので、子どもにも政治の働きを考えさせ貴重な機会となっている。ただ、参加者は児童会の代表だけなので、参加しない子どもとどのようにかかわらせるかが課題となっている。

平賀町児童会生徒会サミットの一般質問として出されたのは次のようなことである。

- ・ 学校のプールについて
- ・ 学校内のバリアフリー
- ・ 新しい公園をつくれないうか
- ・ 他の学校との交流について
- ・ 市町村合併後の行事について
- ・ 森林保護について
- ・ 交通安全対策
- ・ ゴミのないきれいな町づくり
- ・ スクールバスの利用について
- ・ 平賀町民憲章の改正（「高原野菜を町の誇れる名産品としてほしい」
- ・ 街灯の増設について
- ・ 町のボランティア活動について
- ・ 西中の建設費用について
- ・ 平賀ドームの利用について
- ・ 不審者対策について
- ・ 政治に関して日常的に表現する機会・仕組みはないか
- ・ 公園のトイレ
- ・ 福祉関係の仕事について
- ・ 遊具について
- ・ 100円バスについて
- ・ 除雪した雪について
- ・ 平賀町クリーンデー

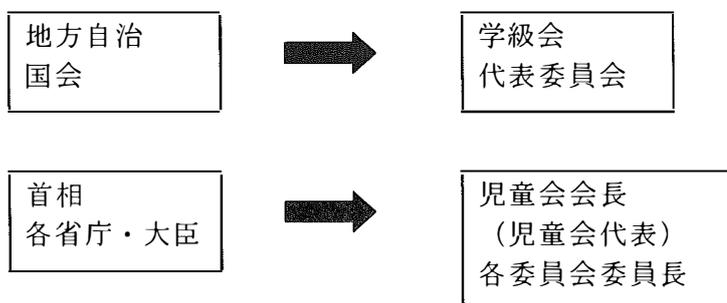
④ 政治の仕組みと児童会

政治の仕組みと児童会活動が類似していることを前述したが、具体的な事例をもとに図示してみると次のようになる。「あいさつのよい学校」というのは、代表委員会の議題としてよく取りあげられている。このあいさつ運動が全校として行われるようになる過程と、町の文化センターが建設されるまでの経過を簡単に対比してみた。



④国・地方政治と児童会・学級会

学級会は独自のねらいを持った学習活動であり、学級会のねらいや活動は代表委員会を中心として行われるわけではないが、代表委員会に出される議題についての話し合いや、そこで決まったことへの取り組みという点に目を向けると、二つの活動は強い関連性を持っていることがわかる。



4. 政治学習の教材開発・・・模擬議会を取り入れた指導

(1) 政治学習を社会科と総合的な学習で横断的・総合的に扱う効果

これまで述べてきたことをまとめると、社会科と総合的な学習を横断的・総合的に行う効果は次のようになる。

- ① 子どもの意欲・関心を高めるために、導入に時間をかけることができる。
単元を通して問題追究が継続していくためには、解決を迫られるような切実な課題や取り組んでみたい活動が必要である。しかし、社会科の限られた時数だけでは導入に十分な時間をかけることができない。
- ② 子どもが納得できるまで追究活動に取り組ませることができる。
- ③ 学習したことを発展させることができる。
社会科は教科の特性から、学習に広がりや発展性がある。社会科の授業が充実していれば、学習内容と直接関連しないような疑問や取り組んでみたい活動が次々と出てくる。これらを取り上げて、総合的な学習の時間に行う。
- ④ 豊かな体験を通してより深い理解がなされる。
- ⑤ 総合知が身につく。
学習が単発的なものではなく、横断的・総合的であるほど、子どもの理解はより広くより深くなされる。社会科の学習とそれに関連したさまざまな課題を解決することによって、総合知の獲得が可能になる。

以上述べたことは、政治単元の学習にも当てはまる。特に政治の学習は、自分とのかかわりに気づかせながら行うことが難しい。

導入と追究活動に十分な時間を取り、豊かな体験をたくさんさせて、総合的に「政治」を理解させなければならないが、そのためには、総合的な学習との関連が不可欠である。

(2) 主な学習の流れ

3で述べた資料を利用しながら、政治単元の学習を横断的・総合的に進めるための具体的な学習過程について、以下に述べていく。

① 社会科で政治と自分のかかわりに気付かせる。

前述した資料を利用して、新しく建設されたN学校のような、費やした金額の多さなどについて学習させ、建設されるまでの町民の願いや経過を追究させて、政治と自分が深く関わっていることに気付かせていく。

② 児童会童会と政治の仕組みが似ていることに気付かせる

前述した資料を利用して、代表委員会、委員会活動、学級会等と町の政治の仕組みについて類似点を追究させる。

③ 模擬議会

「町の議場で模擬議会をやってみよう」という課題意識を持たせる。

そのために必要なこととして、以下の点を確認する。

ア 「町の環境」「町の福祉」など、一般質問することを決める。

イ 一般質問することについて、問題追究を十分にさせる。

ウ 議会の仕組みについての理解を深める。

議会運営については、役場の議会担当者をゲストティーチャーに招いて学習する方法もある。

エ できれば、町役場の議場をお借りして模擬議会を行う。

①～③をまとめたものが次の資料である。

社会科の学習	総合的な学習	児童会・他
① N学校の建設や学校内部のようすを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中 ・ 学校の中を探検(映像) ② 建設までの経過を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町の人々のねがい ・ 町議会 ・ 役場の人々の仕事 ・ 建設開始 ③ 建設にかかわる費用を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金額 ・ 費用はどこから？ 	※総合的な学習の時間は後でまとめ取りする。	児童会活動が開始される。 児童総会 代表委員会が開かれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活のスローガンを決める ・ 運動会のテーマをきめる。 ・ 運動会のいろいろな仕事を児童会が分担する。
④ 児童会活動と町の政治の仕組みをくらべてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの願いがかなうまで ・ 組織 ・ その他 ⑤ 模擬議会にチャレンジしてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画 ・ 町の議会のしくみ ・ 一般質問すること ・ 一般質問することについて調査活動 ・ その他 		委員会活動が行われ、各委員会ごとに多彩な活動が展開する。

<p>⑥ 町の議会の仕組みを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議員 ・ 議長 ・ 町長 ・ 役場職員 ・ 進行 ・ その他 <p>※ゲストティーチャーの活用</p> <p>※町議会だより等の資料の活用</p>	<p>⑦ 一般質問することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる計画 ・ 調べ方 <p>※質問事項がうまく決まらない子には、児童会サミットの資料を調べさせ、参考にさせる。</p> <p>⑧ 追究活動</p>	
<p>⑨ 町主催の児童会生徒会サミットへの参加について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般質問の内容 ・ 質問者 <p>※質問者や質問内容は、模擬議会で質問する予定のことについて調査活動の進んでいるこの中から選出する。</p> <p>⑩ 町主催の児童会生徒会サミットの報告会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会の進め方 ・ 一般質問と答弁 ・ その他 		
<p>⑪ 一般質問することについて調査活動を続ける。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>チャレンジ「〇〇学級の議会」</p> </div>		

5. まとめと今後の課題

これまでの社会科の実践をもとに、社会科と総合的な学習の違いや二つの学習に横断的・総合的に取り組むことの大切さについて述べた。問題解決力の育成、豊かな体験を通じた総合知の獲得など、その効果は大きい。

また、政治単元の学習に関する資料を収集し教材開発に取り組んでみたが、単元構想はある程度できたように思う。

先行実践の少ない政治学習における社会科と総合的な学習との横断的・総合的な学習について述べた。弘前大学教育学部教育実践センター所蔵の資料の中から、全国の実践センターの紀要や附属小学校の研究資料を調べたが、社会科と総合的な学習の関連について論じたものは少なかった。(愛知教育実践センター紀要第7号に載せられている「総合的な学習と教科の関連づけの方法」に紹介されている5つのタイプは参考にさせていただいた。) 参考にする文献が他にも多く存在すると思われるので、それらを参照することと、社会科の他単元の教材開発にも取り組むことを次回の課題としたい。

注 釈

1) 「学級消防団をつくる」

学級消防団づくりを学習の導入段階（ねらい）として扱う。

ゲーム「消防署長さんに聞きました」をした後、学級消防団をつくろうという雰囲気づくりをする。そして、そのために消防についてもっとたくさんを知ることが必要であるというふうに進めて、調査活動に取り組みさせる。

学級消防団づくりという大きな目標を持たせることに成功すれば、それに向かって調査活動が活性化する。

この場合も、社会科だけでなく、総合的な学習と横断的・総合的に扱うことによって、子どもの関心・意欲を高めたり、体験をさせたりする時間を十分に設定することが可能である。

2) 模倣発掘

発掘を実際に体験することによって、歴史そのものを実感的に捉えるだけでなく、「実物から学ぶ」という、追究・調査の基本的な姿勢を身につけることができる。

実際の発掘調査は県の埋蔵文化センターが中心となって、県内各地で行われているが、小学生が実際に発掘現場に立ち入って見学したり、作業に参加したりするという機会は少ない。

そこで、次のような「模倣発掘」を考え、実践してみた。

- ① 前年度の六年生が制作した土器を譲り受ける。または、教師の手持ちの土器を4月初めの、雑草が生い茂る前の地面に埋めておく。
- ② 雑草が地面を覆ってしまう頃、模倣発掘をさせる。
- ③ 雑草、表土のはぎ取りはスコップや鍬を利用、その下は移植ベラ、木片などを利用する簡単な発掘

雑草が生えた地面から土器が出てくるので、大きな驚きがある。このための教師の準備が大変であるが、学習の成果は大きい。

3) 縄文土器づくり

市販の粘土をつかって、立ち上げ式の土器を造り野焼きによって仕上げる。乾燥に時間をかけることと、野焼きで地面を焼き、蒸発した水蒸気が土器に付かないようにするのがポイントである。詳細については別記を参照していただきたい。¹⁰

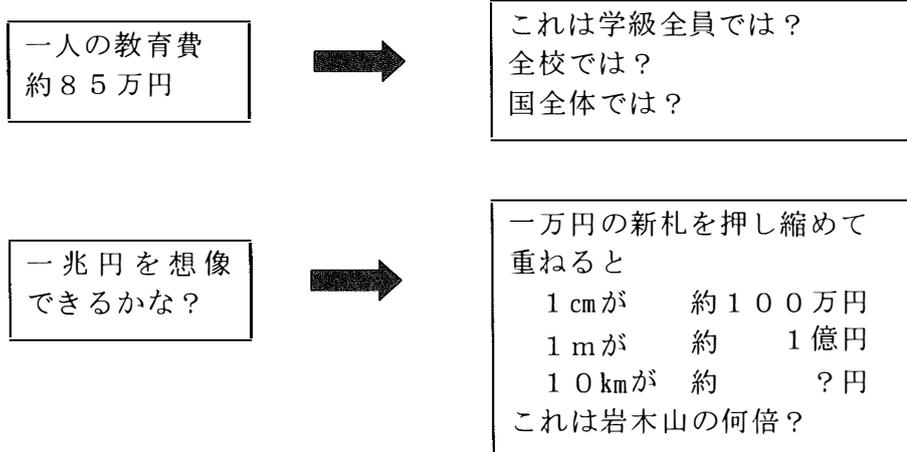
4) 古代米作り

弥生時代の米作りを学習したのをきっかけに、田舎館村の歴史資料館（平成7年）より「あかもろ」「黄米」「紫米」の苗を譲り受け、バケツで栽培した。学級で育てるだけでなく、他県の小学校にも古代米の苗を送り、4箇所ですべて同時に栽培。HPでその生育状態を紹介し合った。

宅配便で送った三種類の古代米の苗が無事に生育したのも驚きであったが、各地の生育状態について情報交換するという学習方法も新鮮であった。インターネットが普及し始めた頃で、この「古代米プロジェクト」と名付けた企画に参加した学校の先生方も、インターネットを使った学習方法を研究する熱心な方々であった。

総合的な学習が登場する以前の実践であるが、パソコンの通信機能を利用した、横断的・総合的な取り組みであった。

5) 教育費が多額なことをイメージさせるために次のようにはたらきかける。



参考・引用文献（インターネットはURLを表記）

- 1) 早坂五郎(2000)；双方向からの総合的な学習，東洋館出版社。
- 2) 天内純一(2005)；問題解決能力を育てる総合的な学習Ⅱ，弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究員研究報告書，第11号，pp. 56-69
- 3) 社会科研究のてびき 広島市小学校教育研究会社会科部会
<http://www.megaegg.ne.jp/~shousha/>
- 4) 文部省；特色ある教育活動の展開のための実践事例集（小学校編）平成11年
- 5) 山口大学教育学部附属小学校(2000)；全国総合おすすめメニュー200事例
- 6) 小学校「東書プラン」作成委員会(2000)；「総合的な学習」のカリキュラム・プランニング 東京書籍
- 7) 平成17年度使用予定の教科書(2005)；大阪書籍 日本文教出版 教育出版
光村図書 東京書籍
- 8) 天内純一(2005)；小学校における政治学習；レ・シトワイン Vol.21
弘前大学教育学部社会科学研究会
- 9) 青森県租税教育推進協議会(2005)；6年社会科学習資料・わたしたちのくらしと税
- 10) 天内純一(1995)；体験活動を重視した社会科学習，弘前大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究員研究報告書，第4号
- 11) 平成16年 平賀町児童会生徒会サミットの記録